

子どもたちのために、 安心して働ける校務員の配置を！

吹田市職労 現業評議会
現業合同支部



地労委審問会場の前で、ガッツポーズ

「労使協定で決めた人員配置は、
守るのがあたり前」

不当労働行為の救済を求めて地労委へ提訴

普通の労使関係を とりもどしたい

「当局は、人員問題について、
まともに話し合おうとしません。
「はじめに削減ありき」の
態度なんです」と川渕政樹さん
(現業評議会事務局次長)は憤
ります。「これまで、職場のこ
とは労使で話し合って決めてき
ました。私たちの要求は、普通
の労使関係を取り戻したいだけ
なんです」と、五十嵐直直さん
(同副幹事長)は、やむにやま
れず地労委に提訴した事情を語
ります。吹田市内には35の小学
校と18の中学校、16の幼稚園が
あります。ここで働く校務員
は、かつて1校に2名の配置が
されていました。屋上で作業し

たり、高い木にのぼって剪定し
たり、蛍光灯を交換するなど危
険を伴う仕事でもあるからで
す。2名の配置はまた、先輩が
後輩に仕事を教えて技術を継承
をする役割も果たしてきました。
その後、市当局より「各校
1名配置にしたい」と申し入れ
がありました。団体交渉の結果、
「学校の環境を悪化させな
い」「安全に配慮をする」「大規
模な中学校5校には2名配置を
維持する」などの労使協定を組
合との間で締結してきました。

市民サービスにも 関わる問題

ところが市長は昨年、「職員
体制再構築計画」をトップダウン
で策定。「多様な雇用形態を

導入する」として、学校校務員
は正規職員を22名以上も削り、
非正規や民間委託に置き換える
人員削減を打ち出しました。
「市長に交渉を求めても「応じ
る立場にはない」と言って拒否
をしています。一方的に人員を
削る行為は、現業職場だけでなく、
市民サービス全体に関わる
大問題です」と岩本欣治さん
(同副幹事長)は言います。

現業評議会の幹事長として、
地労委の審問で校務員の仕事に
ついて証言をした安田学さん

は、「今でも1名配置の職場で
は落下や作業中のケガなど重大
な事故が発生しています。学校
の安全や環境を守る校務員が安
心して働けないような職場であ
れば、結局は、子どもたちに一
番の被害が及ぶことになりま
す」と指摘します。組合が地労
委への提訴に持ち上がったから
、当局は労働安全衛生委員会
を開催するようになったり、学
校長の判断で超過勤務が認めら
れるようになるなど、労働条件
は一定の改善をちとつていま
す。しかし当局は未だに人員問
題の団交には誠実に応じようと
していません。

「子どもたちのために、これ
からも誇りを持って働き続けら
れる職場にしたい。大阪自治労
連の仲間のみなさんにも、ぜひ
ご支援をお願いします」と安田
さんは訴えます。



市民サービスの最前線で働いている
わたしたちを支援してください
枚方市非常勤裁判をたたかろう会

喜びと涙、感動につつまれた勝利
判決報告集会にて(9月17日)

均等待遇へ、大きな前進！

枚方市非常勤裁判 全面勝利が確定！

「一時金・退職金の支給は適法」(大阪高裁)

「やった！道理が通った！」「や
っと非正規の賃金に光が当たってき
た」判決当日は、たくさんの方の支援
の仲間も駆けつけ、喜びと涙にあふれ
る報告集会になりました。枚方市に
働く非常勤職員に対し、給与条列と
規則にもとづいて支払われていた一
時金と退職金について、大阪高裁は
9月17日、「支給は適法である」と
判断。均等待遇の実現へ、大きな前
進を築く勝利判決が確定しました。
この流れを全国へ広げましょう。